

こくろう秋田

国労の闘いの歴史、経験と 教訓を生かし組織拡大へ

10月28日、国労秋田地本は、くらしと労働会館で国労第78



定期大会を開催しました。高橋毅副委員長のあいさつで開会し、議長には村越代議員(総車セ)を選出し、佐藤浩一執行委員長が地本を代表して挨拶しました

(内容別掲)

来賓として県労連高村副議長、全自交東北高橋委員長、国労東日本渡辺副委員長、和賀執行委員が出席されました。



県労連高村様からは「県労連の副議長であり、中通病院労組で委員長をしています。コロナ禍の中で公共交通を守るために闘って

いる国労の奮闘に敬意を表します。自民党の政治は行き詰まっています。地域の労働組合強化のために徹底的に対話し運動を進めていきたい。」



全自交高橋様からは「東京で委員長をする前に秋田で事務局をしておりました。地域共闘の中で国労の支援に感謝しております。タクシードライバーを推し進めている。ドライバーは無権利になる。」



東日本の和賀執行委員は「横手市十文字町の出身で、現在は国労専従で仕事をしています」

渡辺副執行委員長からは「JR内には12の労働組合があり、組合組織率は16%しかない、他は社友会に所

国鉄労働組合
秋田地方本部
秋田市中通
7-2-21
☎018-832-3775
発行責任者 佐藤浩一
編集責任者 編集部

属し、会社に言われるがまま仕事をさせられている異常な状態。労働者の声を会社に要求出来るのは国労しかない。春闘要求もアンケートを広く協力を呼びかけよう。JRは離職者が多い、新規採用者よりも多い。初任給の引き上げや賃金のアップで減らしていくしかない。地方ローカル線について会社は切り捨てる意図が見え見えだが粘り強く守り抜くしかない」

代議員発言

◎高橋誠(総車セ)



組織の状況は高齢化が進んでいる、エルダーがほとんど。組織の拡大が急務。

組織の在り方については組合事務所が維持されるようをお願いしたい。組織拡大と技術継承を両輪で頑張りたい。

◎伊藤宏(北奥羽)



組織人員6職場10名。鷹ノ巣駅一人勤務。熊被害で支障あり。熊にぶつかると30分以上遅延。コロナが

委員長挨拶抜粋



佐藤浩一 地本委員長

組合員の皆さん、ご来賓の皆様のご参加に心より感謝します。

国労秋田地本は、労働者の命と健康、生活と雇用、労働条件改善に取り組んできました。

残念ながらこの数年は組織拡大には結びついてはいません。組織拡大に特効薬はありませんが前に出なければ進まないのもまた事実です。引き続き運動の継続を進めながら、JR本体・グループ会社を含め組織の拡大に向けた体制を整えていきます。

会社は、大幅減収を理由に賃上げの抑制や手当の切り下げを続けています。コロナ禍の中で社員は安全安心輸送の確保に取り組んでいます。今こそ内部留保を活用し、生

活できる賃金と賃金制度の改善を図るべきです。人を大切にすることを増やし、労働条件の改善と健康で安心して働ける職場作り、安心して暮らせる社会に向け取り組みを強めていかなければなりません。

24春闘要求は働いて

いるその価値を実感できる前向きな回答を求め、そのためにストライキも戦術の一つとして考え、丁寧な議論を重ねていくことが重要です。

昨年国交省は、鉄道事業者と地域協働による地域モビリティの刷新に関する検討会の提言を発表し、結果として廃線、バス転換もやむなしの判断もできることになりました。

国労は、分割民営化反対運動の中で「ローカル線の廃止、切り捨てを許すな」という立場で取り組みを進めてきました。地本内でも会社の言う不採算路線が多く存在し、国民が等しく移動する権利・交通権、そして労働者の立場から、地域公共

交通としての利便性を確保し、地域住民・利用者の足、地域の活性化を図るため、連携して対応を強化します。

岸田首相は自民党幹事長からも「首相の支持率が向上しない最大の原因はリーダーとしての姿が示せていない」と言われる始末です。

今年の全国大会には宮崎さん、東日本大会には佐藤智恵美さんが代議員として参加し、自らの思いのたけを発言し参加者から共感を得ています。

国労の闘いの歴史、経験と教訓を生かし今後の運動・組織・財政を着実に継承する義務が私たちにあります。組織拡大という展望を大きく掲げ、労働組合だからこそできる運動を展開するための契機となる大会にしなければなりません。

職場・分会活動を強化し、組織拡大の取り組みに総力をあげる決意です。



5類に移行しお客さんが増えてきた。秋田駅近辺にSuicaの導入で現場の精算事務が増加。大館駅新駅舎開業するが、みどりの窓口が廃止。

秋田支社マルス指令廃止首都圏へ連絡。電話がつながらない現状。東能代駅無人のコンビニに収入確保の為にお酒を販売という話が出たが、年齢確認に要員が必要になる。若い社員と年配社員の意見の違い。出勤報告が勤務時間前なのが実態。グレーゾーンである。一人勤務でメールの整理やタリフの整理で手一杯。年間20通ほど労情情報等を組合員個人に送付している。

◎伊藤博光(北奥羽分会代表) 東能代統括センターの人員状況50名ほどの職場。相互運用で運転士が車掌をしている。運転士も大変。若い人が日勤で何かやってくる。エルダー社員がほとんど乗務している。エルダーは給料三分の一になっている。同一労働同一賃金にして欲しい。



◎柴田哲(横手連合) 横手駅と横手運輸区で横手統括センターになり、3月から大曲駅が一緒になった。助役が副長になり担務が分から

ない。職場では熊除け鈴貸し出し、熊除けスプレーを購入するかという話があるが、今更遅いのは。乗務員が駅で勤務しているが横手駅にはマルスが無い。私事ですが脳梗塞三回目、無理できない状況でもどかしい。



羽後本荘が秋田営業統括センターに入り管理駅が大幅に増えた。南は酒田の一つの本榎駅まで対応必要、何かあっても対応しきれない。支社からおりてきた副長が増えていて、営業以外の人の何をしているのか分からない。秋田駅のみどりの窓口が2つから1つになったが、苦情が増えている。苦肉の策で、要員は増やさず日勤者を使って2窓を開けている。



今年度秋田駅社員の退職者2名、5年目の社員。

◆(回答)渡辺副委員長とエルダーの同一労働同一賃金本社では話がない。



統括センター東北・甲信越はエリアが広すぎる。通勤手当の概念がない。職務乗車証あるだろうという感覚。

◇伊藤宏(北奥羽連合) ダイア改正で時刻表を作らないと言っていたが、八郎潟にも追分駅にも乗継表が営業企画課のハンコがあるものがある。鷹ノ巣駅では撤去された。支社との団交で話してほしい。

スト権確立一票投票は代議員7名中7名の賛成で確立されました

大会宣言「宮崎執行委員 満場の拍手で承認「危機感を持って組織拡大に取り組みなければならぬ」

◇機関紙表彰では、総合車両センター支部が受賞しました。



機関紙表彰式

【役員体制】

- 執行委員長 佐藤 浩一
執行副委員長 高橋 毅
書記長 宇佐美久蔵
執行委員 小嶋 敏明
執行委員 高橋 芳美

- 執行委員 加賀谷章夫
執行委員 宮崎 和孝
特別執行委員 米谷 博幸
特別執行委員 吉田 進
特別執行委員 伊藤 宏
会計監査員 茂呂 彦悦
会計監査員 佐藤智恵美
【祝電】
●国労盛岡地本 ●国労仙台地本
●国労新潟地本 ●国労高崎地本
●秋田県平和労組会議

宇佐美書記長集約



代議員の皆さんのご意見を今後の運動に生かしたい。

国鉄が分割民営化された時ローカル線は守られる、社員の雇用は守られるとした国会での付帯決議はどこまで守られているでしょうか？労働組合の存在価値は労働者の要求を出すための活動と要求の前進を図るために運動にあります。創意工夫しながら団結を強化し実行していくことが大事です。団結とはお互い話し合い、確認し合い同じ方向に向き歩みを進める事です。「みんなは一人のために一人はみんなのために」の精神で

秋田県交通運輸産業労働組合協議会 ●日本共産党秋田県議会議員加賀谷千鶴子 ●社会民主党秋田県連合 ●国労水戸地本 ●国労千葉地本 ●国労東京地本 ●国労長野地本 ●秋田県労働者学習協会 ●全日本年金者組合秋田県本部 ●日本国民救援会秋田県本部 ●東北労働金庫秋田県本部 ●こくみん共済COOP秋田推進本部

行動することです。例えば未加入者でも他労組組合員であっても同じ労働者です。職場の不平不満、愚痴を愚痴で終わらせない取り組みが重要です。目的意識を持って組合機関を活用しながら要求を出すための活動と要求の前進を図るための運動を組合員が中心になって行うのが、組合員が主人公の組合活動であります。自分は何故国労なのかを周りの人に声に出して伝えましょう。自分が今できることをやりましょう。すぐに拡大に結び付かなくても何かしらの種は時かれます。国労の取り組みは職場、会社、地域社会全体を良くしていくための運動です。国労秋田らしい運動を進めて参りましょう。